

北海道大学 触媒化学センター長に就任して  
北海道大学 触媒化学研究センター長 魚崎浩平

東工大に転出された岩本先生の後任として 4 月 1 日付で北大触媒化学研究センターのセンター長に併任となりました。同センターはご承知の通り、1943 年に設置された触媒研究所を母体として、触媒化学分野の発展・拡大に対応し、時代の要請に応えるために、1989 年 5 月に触媒化学分野におけるわが国唯一の全国共同利用研究施設として、時限 10 年で設置されたものです。センターの教職員、歴代のセンター長のご努力が認められ、1995 年には中核的拠点 (COE) としての認定を受け、さらに 1998 年には時限を待たず拡充改組が認められ、現在の基幹研究部門 3 部門 9 分野 (教授 8 名、助教授 8 名、助手 8 名) および客員研究部門 2 分野 (教授 2 名うち 1 名は外国人、助教授 1 名) となりました。センター発足以来、私で 7 人目のセンター長となりますが、センター外からは 5 人目で、先々代の東先生 (免疫科学研究所、現函館高専校長) 以来 3 年ぶりですし、理学研究科からは初代センター長大野公男先生 (化学第二学科)、3 代目センター長松永義夫先生 (化学第二学科) につぐ 8 年ぶり 3 人目となります。

触媒化学の基礎化学としての重要性はいうまでもありませんが、21 世紀の最大の課題である循環型で持続可能な社会を実現する上で不可欠な、エネルギーや環境問題の解決においても「触媒化学」の果たすべき役割は非常に重大です。当センターはこのような重要な分野の COE として国際的に重要な成果を残しておりますが、今後よりいっそうの努力が必要だと感じております。

私自身、触媒学会に所属し、『触媒』誌の編集委員も 3 年間務めました。日頃はアクティブな会員ではなく、北海道の触媒研究者のみなさまとはそれほど交流はありませんでした。今後は触媒化学研究センターの活動を通じて、触媒化学の発展に寄与したいと思っておりますので、宜しくご支援をお願い申し上げます。

触媒  
学会  
北海道  
地区  
報

No. 113

当番

朝倉 清高

askr@cat.hokudai.ac.jp

次回

中村 秀夫

## 北海道地区 新触媒会員の紹介

北海道大学大学院工学研究科 物質工学専攻材料 プロセス工学講座教授 荒井正彦

本年 4 月 1 日付けで、東北大学反応化学研究所から、北海道大学大学院工学研究科物質工学専攻材料プロセス工学講座に着任いたしました。

3 月末に仙台からフェリーで札幌に移って参りました。何年か前の学会のときにもやはりフェリーを利用したのですが、台風明けで出発は数時間遅れ、乗船中は大揺れに揺れて、下船してからもしばらく大地の揺れが止まりませんでした。このときに比べると今回はずっと波もおだやかで、快適な旅で苫小牧まで着くことができました。このときから一ヶ月が過ぎ、少しずつ落ちてきて来ました。周囲も緑が濃くなって、本当に良い季節を迎えることができそうで楽しみです。札幌市の北部に住んでおりますが、近所の美しいポプラ並木は良い散歩コースになっています。研究室は 7 階にあり、緑が大きく広がった北大農場が見下ろせ、遠くにはジャンプ台が見え、見飽きることはありません。

触媒学会には東北大反応研在職中からお世話になっております。当講座では、名前の通り、例えば超臨界流体を反応場とする多相系触媒反応などの化学工学・反応工学に重点をおいた研究を進めてゆきたいと考えております。しかし、触媒を扱うことに変わりはなく、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 第 1 回「北の国触媒塾」報告

北見工業大学 化学システム工学科 岡崎 文保

触媒学会北海道地区新人教育プログラムとして第 1 回北の国触媒塾が、4 月 21・22 日に北海道大学エネルギー先端工学センター 2 階セミナー室で開催されました。テキストには「新しい触媒化学」第二版 (三共出版, 2,800 円) を使用し、道内各地より学生 29 名 (10 研究室) が参加しました。

21 日は多田旭男先生 (現触媒学会北海道地区代表幹事) の開会の挨拶に続き、服部英先生 (触媒化学と反応プロセス)、奥原敏夫先生 (エネルギーと化学品のための触媒)、多田旭男先生 (不均一触媒プロセス)、福岡淳先生 (均一触媒プロセス) の講義 (括弧内は担当章の題目) が行われました。テキストの内容の説明だけにとどまらず、最新の研究成果を交えてわかりやすく講義されて、大変好評でした。

22 日は多田旭男先生 (環境触媒)、向井田健一先生 (触媒のデザイン)、服部英先生 (触媒動力学)、射水雄三先生 (固体酸触媒キャラクター化) の講義が行われました。

講義終了後のアンケート調査の結果、24 人の有効回答が得られ、今回の企画が「自分の研究に役に立つと思いますか?」という質問には、「はい」が 71%、「何とも言えない」が 29%、「いいえ」が 0% と学生にとって非常に有意義だったことがわかります。また、「講師の説明は適切でしたか?」の問いに対しては (複数回答あり)、「わかりやすかった」が 17%、「ふつう」が 75%、「専門的すぎた」が 13% と概ね理解しやすかったようです。全体的な感想として、「新しい、幅広い知識が得られた」、「触媒について理解が深まり、今後の研究に役立てたい」、「普段は受けることのできない先生方の授業を受けることができた」、「教科書内の難しい箇所が理解できるようになった」、「教科書だけでは分かり難い所を実際の例などを用いて説明してもらって良かった」などの意見がありました。しかし、「講義が多すぎて集中力が無くなった」、「日程的にきつかった」などの意見もありました。最後に「触媒学会に入会したいですか?」の問いに対しては「はい」が 29%、「いいえ」が 42%、無回答が 29% と、今後一層の広報強化の必要性を感じる結果となりましたが、その後、5 名の学生が新たに入会しました。4 月 22 日の講義終了後に開かれた懇親会では講師の先生と学生が本音で語り合っていました。きっと触媒の面白さが一層深まったことと思います。